

平成23年3月定例会は3月1日から10日にかけて行われました。

今議会は任期のちょうど折り返し地点で所属委員会や役職などが変わり、任期後半は環境建設委員会の委員長、環境審議会委員、若松区社会福祉協議会評議員などに決まり、また忙しくなります。

本会議では一般質問に立ち、若松区のまちづくり他、多方面から質問、提案をし、思った以上に前向きな答弁が返ってきました。質問項目と主な内容は以下の通りです。
(詳しくは市議会のホームページの記録をご覧くださいか、事務所までお問い合わせ下さい。)



1. 子どもは「宝」確かな育ちを支える未来戦略について

- 特別支援教育の充実について
- 子どもの体力向上について
- 一日保育士体験について
- 子育て検定について



2. 環境モデル都市の実現に向けて

○車の省エネ整備について

自転車利用の促進を進めても、現実的にほとんどの方にとって自動車は生活に不可欠なものです。最近エコドライブ運動をしていますが、エコドライブの前に、省エネ整備はご存知でしょうか？各自動車整備工場などが取り組みを進めていてエンジンを特殊な機械で洗浄し、燃費の約1割の改善とCO2の大幅削減効果が期待できます。本市で走っている車の台数を考えると、特にCO2削減に大きな効果があり支援策を検討してはどうか尋ねました。

○自転車を利用しやすいまちづくりについて

- ・歩道の段差の一部解消について
- ・自転車のマナーアップと安全対策について
- ・パーク・アンド・サイクルライドについて 他



3. 若松のまちづくりについて

○若松区の中心市街地の活性化策について

かつて賑わった若松区の中心商店街や大正市場は今や人通りも少なくなり、個人商店はそれぞれに頑張っていますが厳しい状況があります。確かに全国的な傾向で消費者動向が変わっていることもありますが、街なかの人口減少や少子高齢化が進んだことも大きな原因だと思います。本来、生活利便性や交通利便性の高い場所であり、この問題の解決には住宅政策が不可欠です。若松区には市が家賃の一部補助をする特定優良賃貸住宅や高齢者向け優良賃貸住宅などがほとんどありません。建設の促進をはかっ

たり、既存の住宅を使って本市独自の住宅政策を進めるべきでは？また若松の商店街で北九州市立大学環境工学部などの街なかキャンパスがつかれないか？など尋ねました。

- ・若戸大橋の通行料金無料化について
- ・若戸大橋50周年と新若戸道路の完成記念事業について

昭和37年に完成した若戸大橋はいよいよ来年50周年を迎えます。若戸大橋50周年を記念して若戸大橋を使ったマラソン大会ができないか？その可能性について尋ねました。

またいよいよ平成24年度夏頃には新若戸道路が開通予定です。ぜひ開通前に市民が歩いて渡るウォーキングイベントを実施してはどうかと尋ねました。合わせて新若戸道路の名称を広く市民などから公募してはと尋ねました。

- ・軍艦防波堤を後世に遺し活かすことについて

4. 本市の情報発信力の強化について

5. 到津の森公園の更なる魅力アップについて(i padの活用)

6. 若い世代の歯科検診について

7. 外資による土地や水源地の取得について本市の考え方

北海道などを中心に問題になっている外国資本の土地や水源地の取得は今後さらに広がる可能性があります。現在国でも法律検討の動きはありますが、施行されるまで時間がかかるようであれば、せめて取得の許可が必要になるような条例の制定の必要性について要望しました。

委員会での質問

・新若戸道路の供用開始時期について

平成24年の夏までには工事が完成するように調整を進め秋までには供用開始したいとのことでした。

・玄海遊歩道などの整備について

適切な管理を行い高齢者でも歩きやすくなるようにと要望しました。

このたび私が議会で最初に提案した「水ビジネス」が実を結び、国内自治体で初めてカンボジアの浄水場設計（指導、助言するコンサルタント業務）を受注しました。

